

らんどまあく

茨城



筑波山を背に、高床式の巨大な倉が丘の上に3棟立っている。1棟には正面、水平方向に四角い吹き抜けがあり、風がよく通る。のぞき込むと、山々は額の中の一幅の絵のようだ。平日に背広姿の勤め人が2時間ほど立ち寄り、「ありがとう。癒やされました」と案内所に札を言ってお帰っていく。そんな人をよく見かけるといふ。国史跡の平沢官衙遺跡は奈良・平安時代の郡役所跡だ。20

平沢官衙遺跡(つくば)



復元された倉を背に立つ井坂敦実さん=つくば市平沢の平沢官衙遺跡

03年に市の史跡公園として開園した。当初はそこに県住宅供給公社が住宅団地を建ててはなかった。着工前の1975年に県が発掘調査をしたが、調査後には埋め戻される運命だった。それを住民運動で食い止め、倉まで復元してしまったのが、つくば市で教育長も務めた井坂敦実さん(65)だ。県の発掘調査

を見に出かけ、1辺が1.5以上もある柱の穴を目にした。「ただの住居跡ではない」と確信した。「もう来るな」と追い返されながら、毎日通った。「遺跡の重要性の認定は我々専門家がやる。しつこくはだまっていたくれ」。県職員にそう言われ、「じゃあ、専門家になつてやる」と、考古学の文献を

現代人癒やす古代の倉

読みあさった。5年後、県が折れ、遺跡は国史跡となった。旧筑波町長を経て92年に市教育長になると、こんどは倉の復元に着手する。土地代を含め、3棟の復元に7億円かかった。

「教育長の道楽」と陰口もたれたが、意に介さなかった。やがて、ただのネギ畑だった丘に、黄金色に輝く茅葺きの建物が姿を現すと、平沢の住民たちはみんな度肝を抜かれた。案内所は、住民らでつくる平沢歴史文化財フォーラムが管理し、来場者の案内もする。事務局長の金久保尚さん(68)は、理事長の井坂さんに口説かれて引き受けた。東京生まれで、平沢官衙など知らなかった。定年後は伊豆高原に別荘を建て、釣りと温泉の老後を夢見ていた。

開園前は「日に10人も来ればいい」と言われていた。ところが、案内所に入りきれないほど人が来た。観光バスも乗りつける。あわてて案内所を1.5倍の広さに増築した。いまや来場者は多い日で2千人以上。昨年度は年間約5万人が訪れた。

「年に300日も拘束され、会社員時代より忙しいのは誤算だったけど、すばらしい歴史遺産を多くの人にお伝えできるのは光栄です」(長田寿夫)